

採 点 講 評

英 語

総 評

高1アドバンスト英語では、リスニング、文法・語法、英作文、自由英作文、長文読解など多様な形式で出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力などの程度について試すことで、総合的な英語力を測っている。制限時間に対する問題量が多く、厳しい内容になっているが、アドバンスト模試を受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力・得点力が伸びるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

① リスニング

英文の放送が始まる前に設問に目を通す時間を設けたので、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。

問題A

英問英答形式の設問であるため、聞き取る力以外に速読力も求められる。

(1) ボランティア活動の内容がいくつか出てきたが、その中で最初にしようと思ったものが問われているので情報の整理が必要。

問題B

オーストラリアでの研修についての案内。オーストラリアではイギリス英語が使われているので、放送文最後の方では centre というつづりになっている。序盤に出てくるフィッシュアンドチップスはオーストラリア以外にイギリスでよく食べられることで有名な軽食で、主にタラなどの魚のフライにフライドポテトを添えたもの。

(1) と (5) の出来が悪い。

(1) では a が多めだが、現地の高校生だけでなく、パースの大学に通う学生も、オーストラリア出身の students である。

(5) 放送文全体を注意して聞く必要があったため、

難しかったと思われる。誤答では d が多め。

(6) 正答率はいずれも2～3割にとどまっている。

a「環境」を書けばよいとわかっていても、正しく書けないと得点できない。environment はつづり・発音とも難しい単語なのでよく注意する。

b 交通手段が問われているとわかっている解答も多かったが、plane, train, bus は不正解。

② 文法・語法・英作文

A 文法

(1) 誤答では圧倒的に c had lived が多い。基準になる過去があつてそれよりも前の時を表したい場合は過去完了を使うが、ここでは I was a child と「住んでいた」時は同じはずなので過去形が正しい。

(5) 誤答では d が多い。be used to doing と used to do の違いをしっかりと押さえよう。

(6) レベルが高い問題だった。誤答は a が圧倒的。another のこの用法は少し上級。

(9) 動名詞の意味上の主語についての出題。これもレベルが高い問題だった。

B 整序英作文

語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。全体では、(2) と (3) に苦戦していた。

(2) the last を最初にもってこられた解答は多かったが、そのあとに動詞の happen をつなげてしまったものなどが目立ち、品詞も意識した文法学習が不十分だと感じた。

(3) ウイエオア力としたものが散見された。助動詞を先頭に置くところまではよかったが、be 動詞のあとに形容詞ではなく doing を続けて cannot be choosing too careful in friends としたもののだが、「友人を選ぶ際に慎重になる」という意味にすべき。「…する際に」の意味の in doing という言い方を覚えておきたい。

C 和文英訳

④、⑥ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

④ 配点は以下のとおり。

○私は、元日には決まって、起きたらすぐに年賀状を読

む……4点

○のだが、最近年賀状がメールに取って代われつつあるのは残念だ……5点

「取って代われつつある」では進行形の意味合いを出したい。「取って代わる」の意味を表す言い方を確認しよう。この動詞を使えなかった場合は、e-mails are being sent instead of ~のように工夫することもできる。また、the number of people を主語にして who ... is increasing のようにできれば、それも許容。

⑥ 配点は以下のとおり。

○いくら時間がかかっても、年に1回ははがきを出したいと思う……6点

○特に遠くに住む友人には……3点

「いくら…しても」では‘譲歩’の表現を用いる。解答、別解以外にも、no matter how という表現が使えるので確認しておこう。「出したいと思う」は直訳して I think I want to とはしないこと。want 一語で「…したいと思う」の意味をもつ。「特に」は、「友人」を修飾することがわかる語順を工夫したい。

③ 長文読解

ロックフェラーセンターに据えるクリスマスツリーの選び方の基準やメンテナンスなどについて書かれた説明文。すべて選択式の客観式設問。

設問はどれも、細かい点ではなく大筋をつかめていれば正解できるレベルのものだが、日頃、長文を読み慣れていないと、英文を読んだあとでさらに英語での質問に答えるというのはハードルが高かっただろうか。基本的な設問だったが、意外に正解できていない印象だった。

(2) もっとも正解者が少なかった。誤答では **b** が圧倒的に多かった。candidate は高1では難語と言えるが、前後の文脈から「ツリーの候補」を指していると見当をつけてほしい。

(3) 誤答は割れていて、**c**、**d** が半分ずつ。

④ 長文読解

ナイジェリアの少女による語り。学校に通っていた女子生徒が結婚してから学校に来なくなってしまった、という文脈を読み取るのが難しかったかもしれない。国や地域によってはそのような状況におかれている女子がいる、というような地球規模の社会問題についても普段から目を向けていることは英語や現代文の読解のための強力な武器になる。

(2) 比喩の示す内容を問う問題。該当箇所を見つけることに苦労している様子がかがえた。答えの手がかりは常に本文にある。丁寧に本文を読もう。

(3) 配点は以下のとおり。

○ He allows her to keep them in ~ ……5点

○ the room beside their bedroom where she will stay

with their baby ~ ……8点

○ after it is born. ……2点

keep them in を「彼らが部屋に残る」, the room beside their bedroom を「彼らの寝室」, allows her to keep them in 「彼女にとどまることを許した」など細部の訳をおろそかにしているものが見られる。where が導く節の訳脱にも注意しよう。先行詞が their bedroom ではなく、the room の方であることを確認しておこう。

(4) 配点は以下のとおり。

○ Will there be enough time to watch a love story and then an adventure ……5点

○ before it is time to go home and help Mama with the evening meal? ……5点

before 節の前後、a love story and then ~ の前後を逆に訳さないよう訳し方を確認しよう。「映画を見る前に帰って母の手伝いを~」では before の前後の節が逆である。「恋愛ものを見て、それから〔そのあとで〕冒険もの」の部分でも、2つの順番を逆にしない点に注意する。この then も「~してそれから…」という時間のずれを丁寧に訳出したい。

⑤ 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点を越えない範囲で減点している。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点(減点なし)、7点(-3点)、4点(-6点)、0点(-10点)のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

・賛成・反対の理由が説得力に欠けるもの

・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

・同じ内容の繰り返しになっているもの

今回のテーマは、高校の夏休みに宿題があることの賛否を問うものだった。賛成例では「宿題がないと勉強しない」「勉強するのが高校生の役割だ」、反対例では「他の勉強ができない」「夏休みは休むときだ」といった理由が挙げられていた。文法面では homeworks, in summer vacation といったミスが目立った。「特定の期間の間」と言う場合には during を用いる。自分の英作文が採点されるいい機会だったと思うのでどこが間違っていたのか、どう表現したらよかったのか、しっかり見直しておくこと。

総 評

今回は、必答問題を「数と式」「2次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題を「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」から出題した。

全体的に、基本問題はできていたが、応用問題になると手がつかない人が多かった。また、考え方はわかっているが計算ミスをしているもの、ほぼ正答の答案でも、遠回りの解法をとっているもの、論証に不備があるものも少なくなかった。正確な計算をすること、式の説明や考えた過程で必要な記述をしっかりと書くようにしよう。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

① 小問集合

(1) **ア**、**イ**ともに比較的できていた。できていなかった人は有理化の処理の仕方をしっかり確認しておこう。

(2) **ウ**、**エ**ともにあまりできていなかった。余分な解を書いているものが目立った。絶対値や平方根の処理の仕方を復習しておこう。

(3) **オ**、**カ**は比較的できていたが、**キ**は題意を取り違えて解答していると思われる答案も見られた。

(4) **ク**はできていたが、**ケ**、**コ**はあまりできていなかった。選択肢の集合を十分に考察できていないもの、必要条件・十分条件が理解できていないと思われるものなどが散見された。

② 2次関数

2次関数のグラフの平行移動や特定の象限を通らないときについて考察する問題。

(1) 平方完成をして終わっているものもあったが、概ねできていた。

(2) 比較的できていた。ただし、 G を平行移動したグラフの頂点を $(2, 0)$ と決めつけて解答していると思われるものも見られた。

(3) ところどころでミスが見られた。象限の名称と位置の対応関係を間違えているもの、余分な場合について考察をしているものなど、様々な答案が散見された。

(4) 等号を含む・含まないの間違いや不等号の向きの間違いなど、惜しい間違いも見られた。

③ 場合の数と確率

箱の中から玉を取り出したときの玉の色についての確率の問題。

(1) 比較的できていた。

(2) いろいろな解き方が見られた。玉をちょうど4個取り出して終了する場合と、玉を4個まで取り出して終了する場合を混同して間違えているものも見られた。

(3) きちんと手をつけられているものは少なく、あまりできていなかった。

④ 図形と計量

円に内接する図形を題材とした三角比の問題。

(1) 角の大きさを考慮せず「 $\pm \frac{3}{5}$ 」と答えているものも見られた。

(2) 思っていたよりもできていた。(1)で「 $\pm \frac{3}{5}$ 」と答えたまま、面積を2つ求めているものも見られた。

(3) 途中まで手をつけられているものの、最後までできていないものは少なかった。

(4) 手がつけられていないものもあり、あまりできていなかった。

⑤ 整数の性質

$a^2 + b^2 + c^2 = d^2$ をみたす自然数を題材とした問題。

(1) 場合分けを示さずに余りのみを答えるなど、答案の書き方に不備があり、減点されているものも散見された。

(2) (イ)のみを選ぶことができていた答案是比較的多かったが、論理が飛躍しているものや文字の置き方の不備などがあり、満点をとれているものは少なかった。省略せずに正確に書くことを意識してほしい。

(3) $(a, b, c, d) = (2, 3, 6, 7)$ の組を求められているものは多かったが、 d のとり得る値は7以外に存在しないことを説明できている答案は少なかった。

⑥ 図形と方程式

座標平面上の2直線の交点の軌跡と三角形の面積を題材とした問題。

(1) 思っていたよりもできていなかった。点と直線の距離の扱いに慣れていないと思われる答案も散見された。

(2) 2直線の交点の座標を m の式で表して途中で行き詰っているものや除外点の考察ができていないものが多い、満点がとれている答案は少なかった。

(3) 部分点が得られているものはあるが、あまりできていなかった。「解答」や「解説」でいろいろな解き方を確認しておいてほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

① (50 点) いずれも答に

- (1) ア : 4 点, イ : 6 点
- (2) ウ : 4 点, エ : 6 点
- (3) オ : 4 点, カ : 5 点, キ : 6 点
- (4) ク : 5 点, ケ : 5 点, コ : 5 点

② (50 点)

- (1) (10 点)
答に 10 点
- (2) (10 点)
答に 10 点
- (3) (12 点)
 a がみたす条件を立式して 8 点
答に 4 点
- (4) (18 点)
 a がみたす条件を立式して 12 点
答に 6 点

③ (50 点)

- (1) (10 点)
答に 10 点
- (2) (15 点)
確率を求める式に 12 点
答に 3 点
- (3) (25 点)
確率を求める式に 15 点
答に 10 点

④ (50 点)

- (1) (7 点)
答えを求める途中過程に 3 点
答に 4 点
- (2) (8 点)
 $AB \cdot AD = 160$ に 4 点
答に 4 点
- (3) (15 点)
 $BC \cdot CD = 20$ に 6 点
 $BC^2 + CD^2 = 104$ に 6 点
答に 3 点
- (4) (20 点)
 $\triangle CDE \sim \triangle ABE$ を示して 4 点
必要な線分の長さや面積などを求めて 10 点
答に 6 点

⑤ (50 点)

- (1) (8 点)
根拠に 4 点
答に 4 点
- (2) (17 点)
 d^2 を 4 で割ったときの余りを示して 6 点
 $a^2 + b^2 + c^2$ を 4 で割ったときの余りを調べて 6 点
答に 5 点
- (3) (25 点)
 a, b, c の値を絞り込んで 5 点
 $a^2 + b^2 + c^2 = d^2$ が成り立つかを調べて 15 点
答に 5 点

⑥ (50 点)

- (1) (8 点)
 m を求める式を立式して 4 点
答に 4 点
- (2) (17 点)
 $P(X, Y)$ とおいたときに,
 $X \neq 0$ のときの X, Y の式を求めて 6 点
 $X = 0$ のとき不適を示して 6 点
答に 5 点
- (3) (25 点)
点 P の存在する範囲を示して 5 点
面積が最大になるときを述べて 10 点
点 P から BC に下ろした垂線の式に 3 点
答に 7 点

国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

□ 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「ちようこく」を「ちようかつ」と読む誤りや、(d)「糧」で誤りが目立った。
- (二) 誤答はさまざまであった。空欄の次の段落にある「キュレーターの仕事は……配置する人として始まった」に注目できたかがポイント。

(三) [採点基準]

※a 人は生まれ育った文化や情報環境の蓄積と、直観や感性を総合して対象の意味をとらえるため、b 異文化の地では作品は理解されないか、誤解される可能性があるからと説明して

16点

* a・b 部各8点。

b について、〈欧米の神話を共有していない地域では、物語が機能しないから〉という方向の答案が多かった。〈物語が機能しない〉からこそ生じる問題についても言及してほしかった。

(四) [採点基準]

※a 印象派絵画は、風景や人物、人びとの生活などをテーマに b 光の印象を

色のタッチに置き換えて描いているため、c 文化を共有していなくても理解できるからと説明して

14点

* a 部5点、b 部4点、c 部5点。

〈印象派絵画は、作品の解釈におけるずれが少ないから〉という方向の解答が散見された。ここでは、〈なぜずれが少ないのか〉まで踏み込んで解答してほしかった。その内容こそ、印象派絵画が世界中で愛好される理由といえるのである。

(五) 誤答は(a)や(e)が目立った。該当箇所に戻り、前後の文脈や、場合によっては問題文全体の趣旨を丁寧に読み取って、選択肢を吟味してほしい。

(六) 問題文全体を対象とする内容合致問題である。誤答は(e)が多かったが、キュレーターは鑑賞者に「予備知識」を与える存在ではない。

□ 小説

(一) 全体的によくできていたが、(c)で誤答が散見された。語句の意味をイメージや先入観で曖昧に覚えていると、選択肢を選ぶ際に迷うことになる。辞書などを活用して、語義をしっかりと確認しよう。

(二) [採点基準]

※a 水の戯れは、二年前に作られたバヴァーヌよりも b 格段に難易度が高く、c ラヴェルの作曲家としての成長が感じられるということ

と説明して——12点

* a・b・c 部各4点。

〈バヴァーヌと水の戯れは同じラヴェルによって作られた曲にもかかわらず、難しさやよさが格段に水の戯れの方が上、ということ〉といった方向の解答が散見された。37行目「ラヴェルは水の戯れで急に成長した」に着目して、水の戯れではcの〈作曲家としてのラヴェルの成長を感じたこと〉まで含めて説明してほしい。

(三)〔採点基準〕

※ a 自分はピアノが上手くないことを認め、b 自分の実力を離れて作曲しようと割り切ることによって、c 作曲家として飛躍したこと」と説明して——12点
* a 部4点・b 部5点・c 部3点。

〈ラヴェルは自由な作曲をした〉といった言及にとどまり、〈作曲家として飛躍した〉まで踏み込めていない解答が目立った。傍線部周辺にまで目を配って、70行目の「そう考えなければ納得できないほどのラヴェルの飛躍」という記述にも着目することが大切。

(四) 誤答は(ア)や(エ)が目立った。とくに、(エ)の「さわにも新たな道を提示できるだろうと確信した」といったもつともらしい内容については、一見すると選びたくなるが、こういった選択肢こそ、文中の記述と慎重に照らし合わせる必要がある。

(五) (4)はよくできていたが、(5)で(エ)の誤答が散見された。「特別な音楽の才能をもつことにも対しては」と限定されているので誤り、ということに気づいてほしかった。

(六) 誤答は(エ)が散見された。問題文の描写が、さわと先生、どちらの視点で描かれているかについては、注意深く追ってほしい。

三 古文

(一) 活用語を抜き出すところまではよくできていたが、「んず」「らめ」のここの活用形を選ぶところで誤答が目立った。助動詞の接続や係り結びなど、細かい点にも目を配ろう。

(二) (x)・(z)はよくできていたが、(y)で(オ)の誤答が目立った。一見当てはまりそうだが、文中に〈申し上げる〉主体が明示されていないという点に気づいてほしかった。

(三)〔採点基準〕

※ a 六代の、b 自分を源氏方に引き渡せと言い、c しばらくしたら帰るとd 母をなくさめる様子」と説明して——10点
* a・c 部各2点、b・d 部各3点。

〈嘘をついて〉といった言及にとどまり、〈しばらくしたら帰る〉と言っているまで踏み込めていない解答が目立った。制限字数を踏まえて、ここまで具体的に説明したほうがよい、と判断して解答を作成すること。

(四)〔採点基準〕

※ a いつまでも六代を源氏方に渡さないままで b いられることではないので」と訳して——10点
* a・b 部各5点。

「さて」の内容が抜けている解答や、〈若君が引き渡されること〉にとどまっている解答が目立った。リード文に着目し、〈源氏方への引き渡しに応じていない状態〉を明確にしよう。

(五) よくできていた。内容と表現を問う問題では、文中の内容だけでなく、表現の意図も押さえる必要がある。

(六) 出来がよくなかった。誤答は各選択肢に分散していたので、問題文と選択肢の内容とのつきあわせを丁寧にすることを意識しよう。

四 漢文

(一) よくできていた。

今回は送り仮名を付してヒントとしたが、大学入試では送り仮名なしで問われることも多い。間違えた人は、この機会に、送り仮名も含めた形で覚えておこう。

(二) 単純な問いに見えて、実は(六)と同じく、全体読解問題である。

「寡君」「寡人」という語自体も、一つのヒントになっている。これらの語は、漢文ではよく登場するので、用法を知らなかった人は、解説を読んで理解しておこう。

(三) 〔採点基準〕

〰 a 二度とは b 戻らなかったと訳して

—— 5点

* a 部3点、b 部2点。

問われているのは、部分否定の句形だと見抜くことである。したがって、日本語としてはややこねれない表現だと感じたとしても、採点者に「部分否定だと理解している」と伝わるように訳したい。

(四) 〔採点基準〕

〰 c 不 a 敢 b 愛 c 身 d 逃 e 死と返り点をつけて

—— 5点

* a 部1点、b 部・c 部各2点。

ごくごく基礎的な力を問うものである。正解できなかった人は、漢文の基本に立ち返る必要がある。

(五) 〔採点基準〕

〰 a 主君の使者になりながら、b その贈り物を軽んじておいて、c 諸侯の土地をもらうわけにはいかないということと押さえて

—— 10点

* a 部・b 部各3点、c 部4点。

類似的表現が送り仮名つきで出ていることから、これが反語の句形であることは見抜いてほしかった。

(六) 問題文を細部にわたって正しく読めていたかが問われている。正答できた場合でも、どのような思考プロセスで選択肢を選んだのか、そのプロセスに誤りはなかったか、振り返っておいてほしい。